



地域に根ざし、世界をみざす「ふくしの総合大学」

**日本福祉大学** Since 1953

～日本福祉大学 グローバル化ビジョン 2020-2024～

<重点4項目>

1. グローバル人材の育成・輩出
2. 世界トップレベル大学との協定締結に基づく事業展開
3. 多文化共生社会の推進
4. 日本語教育の世界展開

---

1. グローバル人材の育成・輩出

「グローバル人材」＝「世界で活躍できる人材」と定義し、その実現に必要なコミュニケーション能力、課題解決を図る論理的思考能力、異なる文化的背景を有する他者との協調力を養う。

<キーワード>

「ふくし」「FUKUSHI」「SDGs」「海外フィールドワーク拡充・開発」「グローバル企業」「国際学会誘致」「スーパーグローバル人材」

- ・ 本学の「建学の精神」に含まれる「世界的視野を持ち、自己を捧げることを惜しまぬ志の人」の理念を修得した本学学生を世界各国に派遣し、「ふくし=Finding Happiness in Everyday Life」を世界に伝承できる人材を育成する。

・「SDGs (Sustainable Development Goals) = 持続可能な開発目標」に掲げられている17目標の内、本学グローバル化戦略が貢献できる可能性を有する事業を展開し、以下の3目標にて活躍できる人材を育成していく。

- ①「3・保健(すべての人に健康と福祉を)」⇒「ふくし(Fukushi)」グローバル化
- ②「4・教育(質の高い教育をみんなに)」⇒日本語教育の世界展開
- ③「10・不平等(人や国の不平等を無くそう)」⇒多文化共生社会の構築・推進

・「グローバル社会で活躍できる土台構築」を目的とし、「英語力強化」「グローバル社会との接触」「異文化交流体験」の視点で海外フィールドワーク先の拡充に取り組む。海外渡航に意欲的な学生向けのプログラムの開発だけでなく、海外への渡航経験を有しない学生向けに異文化交流体験をメインにしたプログラムも提供し、特定層だけでなく幅広い層が海外渡航しやすい環境を整える。

・各学部から英語力向上に意欲的な学生を選抜し、国際福祉開発学部で導入済の「スーパーグローバルクラス」に類似した特別な英語教育プログラムを展開する。プログラム受講者は、卒業時にはビジネスレベルの英語力(TOEIC 800点)を有する人材となり、国内外のグローバル企業ならびに国際機関等での活躍を目指す。

・学生のグローバルマインド醸成に繋がる科目を積極的に配置し、学部教育を通じて世界で活躍するというモチベーション醸成を支援する。具体的には、中部国際空港サテライトキャンパスにて開講している「グローバルキャリアデザイン」等のキャリア系の科目を拡充させ、グローバル企業との接点を積極的に増やしていく。

・学生間の国際交流イベント、国際学会等の誘致により、異文化コミュニケーションの機会を増やし、学生が自らの立ち位置を客観的に把握することで、英語力強化、論理的思考能力修得の必要性を感じることを促す。また、学生だけでなく教職員にも同様の効果を与えることも狙う。

・留学生在籍者の目標数を125名(在籍率2.5%)とし、キャンパス内のグローバル化を促進させる。留学生バディ制度等を活用し、日本人学生と留学生の相互交流を活発化させ、相互に高め合う環境を構築する。また、3カ国語(母語、日本語、英語)を操るスーパーグローバル人材として成長できる機会を提供し、卒業後に世界各国のグローバル企業で活躍できるように就職支援を行う。

## 2. 世界トップレベル大学との協定締結に基づく事業展開

本学の教育資産を最大限に活用できる世界各国のトップレベル大学と協定を締結し、学術交流・共同研究等の諸活動を通じて本学のブランド力向上を目指す。

### <キーワード>

「学術交流」「協定校拡大」「学生間交流」「交換留学」「共同研究プロジェクト」「継続的な研究イベント」

- ・ 海外協定（大学間・学部間）校数を 2024 年度末までに 30 大学まで拡大する。地域バランスを考慮し、各国で 2～3 大学を基本とする。
- ・ 協定大学選定においては、学生間交流と共同研究の実現に重点を置き、双方大学の学生が中心的役割を果たせるプログラム開発を行う。そして、両大学が安定的かつ継続的な関係の構築を目指す。
- ・ 協定大学への学生派遣プログラムを継続的に開発し、本学学生の 2.0%（約 100 名）が毎年参加できるように環境を整備する。
- ・ 協定大学と交換留学制度を開始し、海外トップレベル大学の学生と本学学生が同じ教室で学ぶことで本学教育の質的向上に寄与させる。
- ・ 共同研究シンポジウム・イベント等を協定間大学で実施し、定例化することで研究分野での関係強化ならびに大学間の垣根を越えた長期研究プロジェクト等を展開していく。特に本学の根幹を成す「福祉」分野、拡大が見込める「日本語教育」分野での研究プロジェクト、共同論文執筆等を目指す。

## 3. 多文化共生社会の推進

様々な文化的背景を有する人々が共生できる社会をキャンパス内で構築し、地域社会のモデルケースとなることで多文化共生社会の推進を目指す。

### <キーワード>

「多文化共生 キャンパス内実践」「双方向理解」「海外にルーツを持つ学生」「地域における日本語教育」「教育現場（主に小中学校）との交流」

- ・留学生や海外にルーツを持つ学生に対して日本人学生から積極的にコミュニケーションを取り、「外国人から多文化を学んでいく」という姿勢を貫くことで、相互理解を促進させ、一方通行ではない多文化共生社会をキャンパス内で作り上げていく。
- ・「英語」「日本語」だけでなく、様々な国の言語に触れる機会を留学生との交流事業を中心として学生に提供し、言語を切り口に様々な文化や歴史にも触れることで、卒業後に多文化共生社会の構築に貢献できる人材となることを目指す。
- ・「ふくし=ふつうのくらしのしあわせ」の理念を日本に暮らす外国人に向けて発信・実践することで、多くの外国人が安心して日本で長く暮らせる土台を構築する。具体的には、自治体の国際交流協会ならびに NPO 団体と連携し、フィールドワークやボランティアを通じて、生活支援等を展開できる人材を育成する。
- ・留学生だけでなく海外にルーツを持つ学生受入にも注力し、多様な文化が混在するキャンパスにすることで、日本人と外国人で共に作り上げる新しい日本社会像を本学から発信していく。
- ・多文化共生社会実現に必要な「日本語教育」の充実に向けて、「日本福祉大学 日本語教育センター」が勉強会やシンポジウムを積極的に開催する。日本語教育に関する専門的な知識を教授することで地域の日本語教師の質的向上を果たし、地域の日本語教育レベル向上に繋げる。将来的には、全国レベルの事業規模に発展させることを目指す。
- ・本学留学生と地域の小中学生が交流する機会を設け、本学留学生は日本の義務教育現場体験（給食、掃除含む）、小中学生は様々な国の文化に触れる体験をすることで双方が多文化共生について学べるようにする。そして、その経験が将来の社会生活に役立つことを目指す。

#### 4. 日本語教育の世界展開

海外・国内を問わず日本語教育に対する注目度は年々上昇しており、「日本語教育センター」「国際福祉開発学部」が中心となり研究している日本福祉大学 日本語教育メソッドを用いて、日本語教師養成プログラム履修学生を国内外の日本語教育現場に派遣し、世界の日本語教育をリードすることを目指す。

## <キーワード>

「日本語教師インターンシップ」「日本語を母語としない日本語教師養成」「海外における日本語教育レベルの向上」「日本語講座の拡充」「リカレント教育層に対する日本語教育展開」

- ・世界各国でトップレベルの日本語教育を実践している海外大学と連携協定を締結し、日本語教師インターンシップ生として本学学生を派遣する。そこで得られる教育事例等を収集し、日本語教育メソッドの研究開発に活用する。
- ・本学に在籍する留学生に対して全国トップレベルの質と量を誇る日本語教育を展開し、卒業時には留学生全員が日本語能力試験N1取得もしくはN1相当の日本語能力を有する人材になることを目指す。正課授業以外にも「日本語能力試験対策講座」等を展開し、資格取得に向けたサポート体制を充実させる。
- ・日本語を母語としない学生の日本語教師資格取得に注力し、本学での日本語教師養成プログラム修了後、母国にて本学の日本語教育メソッドを展開することで本学の日本語教育が世界規模で展開される構図とする。本学メソッドにて日本語教育を現地で受けた留学生が本学入学を目指す流れを確立し、本学の世界的ブランド力向上を実現させる。
- ・海外トップレベル大学に所属する教員と共同研究を展開し、そこに両国の学生が補佐役として参加することで日本語教育の多角的な研究と学生間交流が可能となり、本学の日本語教育の質的向上に繋げていく。
- ・地域行政機関（市役所等）、経済団体（商工会議所等）と連携し、地域にて日本語教育を必要とする人々（技能実習生等）に対して、日本語講座を提供し、日本で安心した生活を送れるように支援する。
- ・リカレント教育事業部と連携し、福祉経営学部（通信教育）での日本語学概論系科目を開講し、通信学生が勤務する企業や社会福祉法人等で働く外国人との共生や相互理解に貢献することを目指す。

以上

